



千葉県におけるケリの繁殖初記録

新保國弘^{1,2}・柳沢朝江²・片岡真智子²・北城道夫²・柄澤保彦²・桑原和之³

1. 流山野鳥同好会. 〒270-0102 千葉県流山市こうのす台 629-23 e-mail: YQB04350@nifty.ne.jp

2. 野田野鳥同好会. 〒278-0025 千葉県野田市今上 2359

3. 千葉県立中央博物館. 〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2
E-mail: kuwabara@chiba-muse.or.jp

はじめに

ケリ *Vanellus cinereus* は東アジアのみに分布する種で、日本のほかには中国東北部と長江下流域で繁殖する世界的にみれば分布の狭いチドリ目チドリ科の鳥である(竹田 1996)。国内では留鳥とされているが、その分布は限定されており、本州では東海から近畿地方に集中している(藤岡ほか 1997, 1998)、東北から関東地方にかけても繁殖しているが局所的である(Ornithological Society of Japan 1975)。国内では1970年代から繁殖地やその分布が広がる傾向にあるという(高野・柳沢 1979)。

関東地方での繁殖は1937年5月の栃木県那須郡黒羽町金丸原の原野での記録があるが(清棲 1966)、開墾された後は繁殖は確認されていない(清棲 1978)。それ以降、関東地方において、1989年5月の埼玉県吉見町南吉見の水田の1例を除き、ケリの繁殖は確認されていない(栃木県の動物と植物編集委員会 1972, Ornithological Society of Japan 1975, 日本野鳥の会 1980, 栃木県産鳥類目録編集委員会 1981, 望月 1985, 埼玉県生態系保護協会 1989, 日本野鳥の会栃木県支部栃木県野生動物研究会 1993, 埼玉県環境部自然保護課 1996)。

千葉県内では、ケリは非繁殖期、特に冬期標行する冬鳥とされている(千葉県 1976)。千葉県北部の印旛沼や利根川周辺で少数が越冬するが、南部ではまれであり、県内での越冬個体数も少ない(桑原ほか 1994)。東京湾岸でも記録は少なく、近年では1998年8月13日に習志野市谷津干潟で幼鳥(1st. winter)が1羽、8月21日に三番瀬で1羽が観察されているだけである(松井淳 私信)。ただ、千葉県内でも江戸川中流域沿いの水田地帯である流山市新川耕地において、1992年から1998年にかけての17回の調査で、最大個体数25羽、最少1羽、平均16羽の越冬個体が記録されている(流山野鳥同好会 1998)。このような状況下で、1998年の繁殖期に、千葉県流山市に隣接する野田市の水田でケリの繁殖を確認したので報告する。

1998年12月6日 受理

キーワード：ケリ, 水田, 繁殖記録

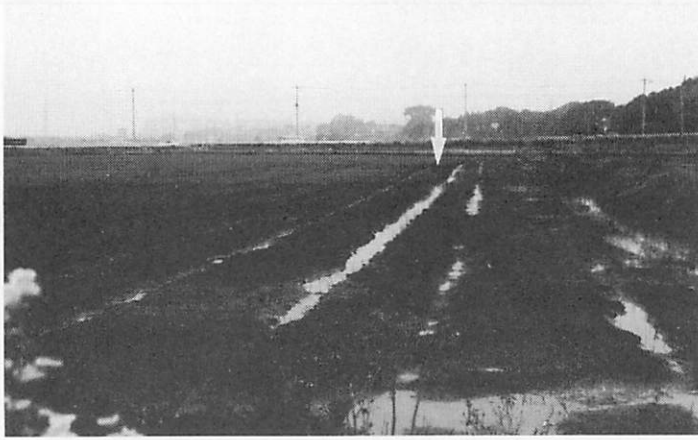


図 1. 調査地とケリの営巣場所 (1998年5月23日). 営巣場所を白の矢印で示した.

Fig. 1. Nest site of Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus*, 23 May 1998. White arrow shows the location of the nest.

調査地および調査方法

ケリの巣は、江戸川中流域左岸、千葉県野田市内の南に位置する農耕地、今上耕地の水田で確認された (図 1)。今上耕地は、南北に長い面積約 210ha の水田で、営巣場所の水田は仮番 58-10 (35° 56' N, 139° 53' E) にあたる。今上耕地の南には、利根運河を挟んで流山市の新川耕地 (約 240ha) が南北にのび、この今上と新川の 2 つの水田には冬期にはタゲリ *Vanellus vanellus*、田植え時にはムナグロ *Pluvialis fulva* などのシギ・チドリ類が多く観察される (野田野鳥同好会 1991, 流山野鳥同好会 1998)。

今上耕地にケリ成鳥 1羽の渡来をはじめて確認した 1998年 4月 19日から、ケリが観察されなくなる 6月 21日まで 35日間観察を行なった。営巣地の南側の農道および水田 4枚分離れた東側高台の建設中の道路から 8~10倍の双眼鏡および 20~30倍の望遠鏡を使用してケリの行動を記録した。繁殖に影響を与えないように配慮し、写真撮影も行なった。観察時間は原則 9時からとし、1日の観察回数は、1~3回行なった。1回の観察時間は 10~30分を標準とし、ときには 7時間におよぶこともあった。

結 果

1. 繁殖状況

1998年 4月 18日に、今回繁殖が確認された今上耕地から約 4km 南に離れた場所にある新川耕地で、はじめて繁殖期のケリが確認された。19日に今上耕地でもケリの成鳥 1羽の飛翔を確認し、20日には 2羽を確認した。5月 7日は 1羽しか確認できなかったが、9日に江戸川方向へ連れだつて飛ぶ 2羽のケリを確認した。5月 17日には、仮番 58-10の南北に長い面

積50 aの、田起こし後で雑草がまばらに生える水入れ前の水田の北奥で抱卵中のケリを確認した。5月19日および20日に抱卵を確認、もう1羽は近くを歩いていた。5月21日にも抱卵を確認したが、もう1羽は見あたらなかった。5月23日には、つがいと40～60分間隔で抱卵を交代した。抱卵していない個体は、巣の近くで警戒あるいは採食をしていた。

5月24日に抱卵している成鳥1羽を確認した。元肥をまく動力車が水田に入り農作業をはじめると、抱卵している成鳥が巣を離れ上空を旋回した。旋回しながら警戒音を発し上空を飛び回っている際に、4卵を確認した。卵の地色は濃い茶色で黒色の斑があった(図2)。巢材は、長さ5cmほどの切りワラや枯れ草でつくられ、水田の土の上にただ置かれている程度の簡易構造の地上巢で、その巣の大きさは直径25cmほどであった。元肥をまき終わった後も巣は破壊されておらず、やがて成鳥は再び抱卵した。

5月25日にも、つがいを確認した。抱卵していた個体が7～8分巣から離れ、巣の近くで水を飲み、羽づくろいをした。もともと抱卵していない個体は、巣の側に寄るだけでなかなか抱卵を交代せず、10分ほど動かなかった。その交代間隔は60分ほどであった。

5月27日にも、つがいを確認した。抱卵していない1羽も近くの水田におり遠くへは飛ばなかった。同日、耕作者から、水田への水入れをはじめるとの連絡があった。したがって水入れのため巣が水没し、放棄されることが確実になったので、千葉県環境部自然保護課へ連絡し卵の緊急保護を要請した。親鳥が上空で鳴き警戒する中、水田に入り、巣から卵が保護された。水田に水が満たされ、巣が崩壊した後も、つがいは6月20日まで維持された(付表)。しかし、6月21日以降は確認されなかった。

なお、6月3日に、緊急保護した卵がふ化した。ふ化した3ヒナのうち1羽は6月15日に13日齢で死亡し、2羽が16日に14日齢で死亡した(図3)。ヒナは千葉県立中央博物館に収蔵された(CBMZB-2208, 2209, 2210)。



図2. ケリの巣と4卵(1998年5月24日)

Fig. 2. Four eggs in the nest of Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus*, 24 May 1998.

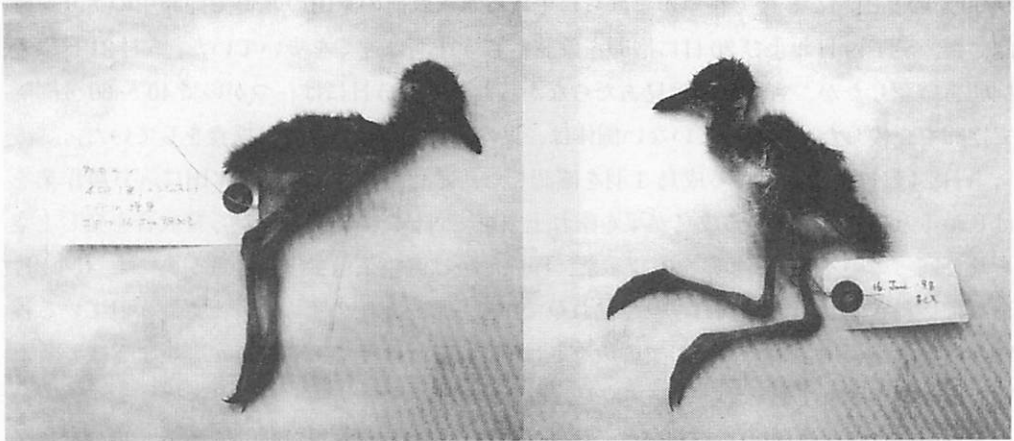


図3. ふ化後死亡したケリの14日齢のヒナ。

Fig. 3. 14 day old chick of Grey-headed Lapwing *Venellus cinereus*, 16 June 1998.

2. 営巣地の環境

ケリが営巣した仮番58-10の水田は、東西間口50 m、南北奥行き100 m、面積50 aの水田であった。今上耕地の水田は、10 aの水田が400枚、20 aが290枚、30 aが170枚、40 aが70枚、50 aが21枚、60 aが11枚および70 a以上が3枚からなり、ケリの営巣した水田の広さ50 aは、今上耕地の中では広い面積の水田に属していた。また、営巣した水田は、南側のみ未舗装の幅員5 mの農道に接し、ほか3方は同規模の水田に囲まれ、東側高台の建設中の道路からは、110 m離れていた。ケリの営巣場所は、南側の農道から北へ約80 mの奥まった所であり、一般人の近づかない場所であった。したがって水田の面積が広く、道から離れているなど、人からの干渉の少ない場所をケリが営巣場所として選んだ可能性がある。5月17日の抱卵確認時は、この水田は田起こし済みの、10～30 cmほどの高さの雑草がまばらに生えている程度で、元肥まきや水入れはまだであった。その後、5月24日には動力車で元肥がまかれ、卵を保護した5月27日には水入れが開始された。

3. 営巣中に見られた行動

・人に対する行動

5月18日、ケリが15 mほど飛び上がり、「キリィッ、キリィッ」と声を出し、3名の観察者へ向かってきて、巣の近くになかなか降りようとしなかった。5月26日には、観察者1人が南面農道を歩いただけでケリは威嚇行動を示した。

・捕食者に対する行動

ハシボソガラス *Corvus corone* やハシブトガラス *C. macrorhynchos* などのカラス類が3回、水田に入って10～20 mの距離に近づいたとき、抱卵していない個体は、けたたましく感じる「キリィッ、キリィッ」と聞こえる声を出し、飛翔し追いかけた。カラス類が出現すると、そのつど追いかけて威嚇した。特にイタチ *Mustela sibirica* が1回、畦に現れ約20 mの距離に近づいた時、執拗に攻撃し、イタチを巣の周辺から完全に追い払うような行動をみせた。

・同所的な環境に生息する種に対する行動

5月21日には、同じ区画の水田にタマシギ *Rostratula benghalensis* のメスが15 mほどの距離で座り込んでいたが、ケリの攻撃的行動はみられなかった。5月23日にもケリの巣から10 m近くを歩いているタマシギのつがいには攻撃的な行動は示さなかった。5月25日にも、巣の周囲約10 m近くに確認されたタマシギの雄と雌、キジバト *Streptopelia orientalis*、ムクドリ *Sturnus cineraceus*、スズメ *Passer montanus* には威嚇しなかった。同日午後、1羽のケリが、タマシギのつがいがある方向へゆっくり歩いていった時、タマシギの1羽が片羽を上げ威嚇したが、ケリは距離を変えることなく、タマシギの近くを通り過ぎていった。

考 察

ケリの抱卵期間は、27～30日とされている（竹田1996）。したがって、この千葉県初繁殖例の巣では、5月上旬ころに初卵が産卵され、抱卵されたと考えられる。本種の繁殖期間は、2月下旬から6月にかけてであり、繁殖地は畑や水田である（愛知県1983）。1998年は4月18日に成鳥1羽が新川耕地で確認されている。今上耕地では4月19日に1羽が確認されているが、このころからつがい形成などの繁殖行動を行っていた可能性が高い。

また、新川耕地における1997～1998年冬期のケリの初認は1997年9月21日の3羽で、終認は1998年2月22日の1羽である。調査地で水田に水入れがなされる5月の1か月前にあたる4月以前から営巣産卵するようになれば、当地がケリの安定した繁殖地となる可能性がある。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、ご協力、ご助言や貴重な資料、文献の提供をいただいた千葉市立動物公園の清田義昭、伴野修一、豊橋市立動物園の方々、千葉県環境部の笠井貞義、石川県野鳥園の竹田伸一、京葉ホンダの小林大光、谷津干潟自然観察センターの松井淳、山階鳥類研究所の平岡考、鶴見みや古、百瀬邦和、日本野鳥の会の小坂正俊、古南幸弘、埼玉県生態系保護協会の島田勉、野田野鳥同好会の関根定春、北城昭夫、田中勝美、菊池慎一、流山野鳥同好会の田殿吉弘、岡田啓治、浅川裕之、石川弘の諸氏に感謝申し上げます。

要 約

1998年5月9日、千葉県野田市の農耕地でケリ *Vanellus cinereus* の繁殖行動を確認した。水入れ前の水田で5月17日に抱卵を確認し、その後24日に1巢4卵を確認した。巣が壊されるため巣の中の4卵を保護し、そのうちの3卵が6月3日にふ化した。ヒナは6月15日に1羽、16日に2羽が死亡した。この記録は千葉県初の繁殖記録である。

引用文献

- 愛知県. 1983. 愛知の野鳥. 愛知県, 名古屋.
- 千葉県. 1976. 千葉県鳥類目録. 千葉県環境部, 千葉.
- 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1997. シギ・チドリ全国カウント報告書 1997年春. 日本湿地ネットワーク・シギ・チドリ委員会, 豊橋.
- 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1998. シギ・チドリ全国カウント報告書 1997年秋. 日本湿地ネットワーク・シギ・チドリ委員会, 豊橋.
- 清棲幸保. 1966. 野鳥の辞典. 東京堂出版, 東京.
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑Ⅱ. pp. 678-680. 講談社, 東京.
- 桑原和之・和仁道大・木幡冬樹・原田 茂・落合加代子. 1994. 千葉市に生息する鳥類Ⅱ. 千葉自然環境調査会(編). 千葉市野生動植物の生息及び生態系調査報告書Ⅱ. pp.175-220. 信山社サイテック, 東京.
- 望月和男. 1985. 茨城の野鳥. 茨城新聞社, 水戸.
- 流山野鳥同好会. 1998. 流山とりだより別冊. 新川耕地シギ・チドリ調査記録. 流山野鳥同好会, 流山.
- 日本野鳥の会. 1980. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(鳥類). 日本野鳥の会, 東京.
- 日本野鳥の会栃木県支部栃木県野生動物研究会. 1993. 栃木の鳥獣カラー百科. 下野新聞社, 宇都宮.
- 野田野鳥同好会「野田市鳥類目録」編集委員会. 1991. 野田市を訪れた野鳥たち—野田市鳥類目録一. 野田野鳥同好会, 野田.
- Ornithological Society of Japan. 1975. Check-list of Japanese Birds. Gakken, Tokyo.
- 埼玉県環境部自然保護課(編). 1996. さいたまレッドデータブック 埼玉県希少野生生物調査報告書動物編. 埼玉県, 浦和.
- 埼玉県生態系保護協会. 1989. イベントショット 埼玉初ケリの繁殖確認. ナチュラルアイ 8: 1.
- 高野伸二・柳沢紀夫. 1979. 日本鳥類保護連盟野鳥図鑑. 日本鳥類保護連盟, 東京.
- 竹田伸一. 1996. ケリ. 樋口広芳・盛岡弘之・山岸哲(編). 日本動物大百科第3巻鳥類Ⅰ. pp.85-86. 平凡社, 東京.
- 栃木県の動物と植物編集委員会. 1972. 栃木県の動物と植物. 下野新聞社, 宇都宮.
- 栃木県産鳥類目録編集委員会. 1981. 栃木県産鳥類目録. 日本野鳥の会栃木県支部, 宇都宮.

First breeding record of Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus* at Noda City in Chiba Prefecture, central Japan

Kunihiro Shimpo^{1,2}, Asae Yanagisawa², Machiko Kataoka², Michio Kitashiro²,
Yasuhiko Karasawa² and Kazuyuki Kuwabara³

1. Wild Birds Club of Nagareyama (Nagareyama yacho doukou-kai). 629-23 Kounosudai, Nagareyama City, Chiba 270-0102
2. Wild Birds Club of Noda (Noda yacho doukou-kai). 2359 Imagami, Noda City, Chiba 278-0025
3. Natural History Museum and Institute, Chiba. 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682

The breeding behavior of Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus* was observed in a rice field in Noda City on 9th May 1998. The nest was found on 17th May. It was built in a paddy field prior to its being filled up with water. Four eggs in the nest were inspected on 24th May. The nest failed because the rice paddy was filled with water for cultivation. After the eggs were rescued from the nest, three chicks hatched but died. This is the first breeding record of Grey-headed Lapwing in Chiba Prefecture, central Japan.

Key words: breeding record, Grey-headed Lapwing, rice field, Vanellus cinereus

付表. 卵の緊急保護後の1998年5月28日から6月20日までのケリのつがいの観察

Appendix. Observation of the pair of Grey-headed Lapwings.

Date	Time	Notes
28, 29 May	9:00-9:30	ケリは確認できなかった。
30, 31 May	9:00-9:50	ケリ2羽を繁殖田および隣りの水田で確認した。
2 Jun	9:10	ケリは確認できなかった。
3 Jun	9:10	ケリは確認できなかった。
4, 5 Jun	16:30	ケリは確認できなかった。
6, 7 Jun	16:30	ケリ2羽を確認した。
9 Jun	9:30	ケリは確認できなかった。
10 Jun	9:30	ケリは確認できなかった。
11 Jun	9:10	ケリ1羽は畦にうずくまり、1羽は立って休息していた。
12 Jun	9:25-10:00	ケリ2羽が鳴き交わしながら、5分から10分間誇示飛翔を見せ、繁殖田に2羽とも降りた。
13 Jun	9:30	ケリ2羽を確認した。
15 Jun	9:25-9:35	ケリは確認できなかった。
16 Jun	9:25-9:35	ケリ2羽が隣の畦の両側に立っていた。1羽が「ケー」と鳴くと、もう1羽も飛び立ち、近くの水田に10mほど離れてすぐに降りた。つがいは維持されていると思われた。
17 Jun	16:30	繁殖田と農道を隔てた向かいの水田につがいを確認した。
18, 20 Jun	16:30	つがいを繁殖田で確認した。